

2021 年度事業報告

概要報告

1. 骨髓バンク事業の現況と運動の成果

2020 年から広がってきた新型コロナウイルスは、2021 年 4 月には変異株が主体となる第 4 波の感染拡大が続いてきました。さらには第 5 波・第 6 波へと感染が拡大し続けてきました。このため全国各地団体及び全国協議会が進める、普及啓発活動及びドナー登録推進活動をはじめ、予定されていた各種事業の中止や変更を余儀なくされてきました。

特に献血併行型登録会においては、密を避けるということから活動ボランティアの数が制限をされたり、献血後に説明活動するよう指示がされたりと、すべての患者さんに適合ドナーが見つかるようにとの願いから、やりきれない思いのボランティア活動ではなかったかと思えます。しかしこうした中でも、行政や地元赤十字血液センターのご協力とともに、創意工夫するなかでドナー登録推進をしていただきました。

この結果として、2021 年度では 32,371 人の方に新規ドナー登録をしていただき、日本骨髓バンクが進めるコーディネートへとつなぐことができ、1,173 例の骨髓移植が行われることとなりました。このことは、全国協議会加盟団体をはじめとする多くの説明員及び支えるボランティアの成果であると確信をしております。

また、各地では担えない患者支援活動として、患者相談や経済的な患者支援活動及び医療講演会やよりよい骨髓バンクを目指した要望活動につきましては、コロナ感染拡大の中でも、可能な範囲で進めることができました。

こうした状況ではありますが、全国協議会の活動を多くのおみなさまにお知らせするなかで、多額のご寄付をいただき、健全な運営を行うことができました。

2. 要望活動

かねてから全国協議会が要望していた事項、すなわちドナー登録推進活動の取り組みとして「オンライン登録の基盤整備、スワブ検査導入の検討」また、コーディネート迅速化として「初期段階での電話連絡、確認検査の方法の改善、オンライン説明同意、バックアップドナー制度、コーディネーター等とのファクス連絡の廃止等」が、日本骨髓バンクの令和 4 年度事業計画書に具体的に記載され、実現に向けて展望が開けてきました。

今後、これら日本骨髓バンクの計画事項が着実に、かつ早期に実施されるよ

う、しっかり見守り不十分な場合には叱咤激励し、応援して行くことが求められていくものと思われまます。

また、かねてから要望している「小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」が、2021年4月1日から国の事業として開始され、がん患者さん等への妊孕性温存費用の助成が始まりました。

事業別報告

1. 設立 30 周年記念事業

(1) 「2021 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」

設立 30 周年記念大会は、2020 年 5 月 30 日（土）に「2020 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」として四谷区民ホール（新宿区）で開催予定でしたが、コロナ禍で緊急事態宣言が発出されていたことから、同日は式典のみを Zoom を活用した Web で開催し、「集い」は延期していました。

この「集い」は「2021 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」として、2021 年 5 月 29 日（土）、コロナ禍第 4 波の緊急事態宣言中のため昨年へ続き WEB で東京新橋のスタジオから、大谷貴子顧問の総合司会で開催しました。渋谷俊徳副会長の開会挨拶で始まり、パネルディスカッション「継承される命・こころ、真の緩和ケアとは～若い親が病気になるということ」を行った後、「白血病フリーダイヤル」の相談員と専門医の皆様への感謝状読み上げと続き、その後「全国骨髄バンク推進連絡協議会 30 周年記念宣言」の読み上げがあり、野村副会長の閉会の挨拶でお開きになりました。

(2) 医療講演会・患者相談会

設立 30 周年を迎えた全国協議会の記念事業として各地ボランティア団体と連携して 2020 年度に「医療講演会・患者相談会」を開催することを企画しました。しかし、コロナ禍のため 2020 年度の講演会・相談会開催は困難となり、引き続き開催申請の受付を継続しています。2021 年度に入ってもコロナ禍は収まりませんが、血液疾患を考える患者家族の会「リボンの会」（福岡県）が 2021 年 10 月 30 日（土）、Zoom ウェビナールームで『2021 「リボンの会」医療講演会』を開催しました。

2. 普及啓発事業

(1) 普及啓発活動

1) 主催・共催、協力、名義後援などの普及啓発

① 主催事業 計 1 件

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本年度も一同に会してのボランティアの集いは行わず、東京新橋の会場を拠点としてハイブリッ

ド形式で開催しました。また例年行っていた箱根駅伝での街頭啓発活動も中止としました。

開催期間		内 容	参加人数	開催場所
2021年	5月29日	2021 全国ボランティアの集い in 東京	160人	新橋ビジネスフォーラムから Web 配信

② 共催事業 計2件

設立30周年記念事業として加盟団体主催で医療講演会を行いました。コロナ禍で残念ながら中止となった会もありました。

開催期間		事業名	開催地	主 催
2021年	10月30日	広げよう “いのちのリレー” ～正しく知る血液疾患と移植～	Web	血液疾患を考える患者家族の会「リボンの会」
2022年	2月19日	「未来につなぐ 命と心のバトン」多様化する造血細胞移植	中止	骨髄バンクを支援するやまがたの会

③ 名義後援事業 計4件

開催期間		事業名	開催場	主 催
2021年	11月13日 ～14日	東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD 2021	東京都 渋谷区	一般社団法人 SNOW BANK
	12月26日	骨髄バンクチャリティクリスマス コンサート 2021	兵庫県 姫路市	姫路地区骨髄バンク推進センター
2022年	3月5日	骨髄バンクチャリティ 石川祐支&大平由美子 春待ち コンサート	北海道 札幌市	北海道骨髄バンク推進協会
	3月5日 ～13日	「AYA week 2022」	Web 全国各地	一般社団法人 AYA がんの医療 と支援のあり方研究会

④ 展示会への協力

MAMO のメッセージ展 計1カ所（1997年6月から事業開始累計開催数 153回）

開催期間		開催場所		主 催
2021年	9月27日 ～12月27日	山形県 山形市	荘内銀行桜田支店 他	山形県健康福祉部地域医療政策課

いのちの輝き展 計2カ所 (2006年6月から事業開始 累計開催数 139回)

開催期間		開催場所		主催
2021年	9月27日 ～28日	北海道 札幌市	北海道庁	北海道骨髄バンク推進協会
	10月21日 ～25日	宮崎県 宮崎市	イオンモール宮崎	宮崎県福祉保健部健康増進課

あやちゃんの贈り物展 今年度実施無し
(1994年7月から事業開始 累計開催数 282回)

患者とドナーのお手紙展 計1カ所 (2004年9月から事業開始 累計開催数 58回)

開催期間		開催場所		主催
2021年	7月2日 ～8月4日	島根県 松江市	島根県立図書館	公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根 しまねまごころバンク

わたしががんばったよ展 今年度実施無し
(2012年11月から事業開始 累計開催数 33回)

2) 啓発グッズの作成・頒布

ハローキティミニサイズうちわ、ハローキティポケットティッシュ、ハローキティクリアファイル、ミニハンカチを加盟団体、各地方自治体を介して頒布しました。

グッズの作成と活用

グッズ名	配布先・配布数		作成数・作成時期	
ハローキティポケットティッシュ	加盟団体へ	6,533個	220,000個	2020年 1月
	地方自治体など	34,347個		
ハローキティクリアファイル	加盟団体へ	533枚	5,000枚	2019年 9月
	地方自治体など	109枚		
ハローキティ横断幕	加盟団体へ	0枚	—	—
	地方自治体など	1枚		
ハローキティのぼり	加盟団体へ	0枚	—	—
	地方自治体など	2枚		

ハローキティうちわ	加盟団体へ 地方自治体など	100枚 252枚	5,000枚	2019年 7月
今治のミニハンカチ	加盟団体へ 地方自治体など	363枚 942枚	6,000枚	2019年 12月

(2) 東京マラソン 2021、2022 および今後への取り組み

当初 2021 年 10 月に予定されていた東京マラソン 2021 はコロナ感染拡大防止の観点により延期となり、2022 年 3 月 6 日（日）に「まん延防止等重点措置」中でしたが開催されました。全国協議会のチャリティランナーで実際に走った方は 19 名でした。東京マラソン財団から沿道での応援やチャリティホスピタリティー（もてなし＝着替え場所の提供、ラウンジ設定等）については自粛要請が出ていたため、参加ランナーへは応援メッセージを送り、当日はテレビ前で応援しました。この開催時期の変更に伴い、2022 大会の開催が中止となったため、チャリティランナーや寄付金の募集活動を行うことができませんでした。

また、東京マラソン財団が新たに立ち上げた寄付募集プログラム「RUN with HEART」に参画し、今後はそこから提供される各種イベントに参加していく予定です。

(3) 情報発信

- ・機関紙の定期発行（計 12 回）

号数	発行月	主な記事内容
No.344	2021 年 4 月	さい帯血移植が 2 万例突破 骨髄バンクの移植は漸減
No.345	2021 年 5 月	「2021 全国骨髄ボランティアの集い in 東京」開催予告 ハイブリッドで新橋のスタジオより全国へ配信予定
No.346	2021 年 6 月	白血病フリーダイヤル 開設から 25 年
No.347	2021 年 7 月	「2021 全国骨髄ボランティアの集い in 東京」開催（5 月 29 日） ～本当に必要なケアを患者さんの子どもに～
No.348	2021 年 8 月	国・関係機関に要望書提出「ドナー登録とコーディネート のオンライン化、スワブ検査導入の早期実現」
No.349	2021 年 9 月	「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」枯渇の危機
No.350	2021 年 10 月	病室に無料 Wi-Fi が完備されている病院を調査 「#病室 WiFi 協議会」記者発表

No.351	2021年11月	日本骨髄バンク創立30周年 記念大会は10月2日 イイノホールで開催 (Zoom)
No.352	2021年12月	全国協議会設立30周年記念事業 医療講演会 リボンの会が10月30日にZoomで開催
No.353	2022年1月	新年のご挨拶 (会長・理事長、関係機関代表者)、都道府県骨髄 バンク担当者会議開催 (11月26日、Web会議)
No.354	2022年2月	「佐藤きち子記念 造血移植患者支援基金」患者助成継続の ためのクラウドファンディングが2月14日よりスタート
No.355	2022年3月	地区普及広報委員説明員研修会受講報告、クラウドファンディン グ経過報告

全国協議会ニュース 第344～355号 毎月3,600部発行×12回 (毎月1日発行) 行政、議員、関係機関、医療関係者、寄付者、各地団体などへ郵送配布しました。

・ホームページ (HP) などでの情報提供

ホームページ実行委員会を9月12日 (日) に立ち上げ、支援者とのコミュニケーション活性化を目的とし、「支援者ページ」を全面的に見やすく見直すことにしました。見直し業者に「(株) エアプランツ」を採用し、見直し案を詰めています。

HPやFacebook等を適宜更新し、全国協議会ニュースや事業報告・決算、事業計画・予算などの情報公開を行いました。

(4) その他

・学生の学習、研修対応

2022年2月18日 中野区立中野中学校 社会貢献の学習 4人

・寄付贈呈 計3回

開催期間		内 容	主催者・事業名等
2021年	11月28日	寄付贈呈	ゴールドジム関東スクール発表会2021
2022年	2月12日	寄付贈呈	2022ゴールドジムダンススクール発表会
	2月26日	寄付贈呈式 (浅野祐子理事)	ゴールドジム関西スクール発表会2022

3. 患者・ドナー支援事業

(1) 患者・家族への支援活動

「白血病フリーダイヤル」による相談活動

全国協議会の患者支援活動の原点である「白血病フリーダイヤル」による相談活動は、1996年7月の開設から25年が経過しており、本年度の開設回数は12回、受付相談件数は95件（前年度153件）でした。コロナ禍による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発令のため2021年5月、7月から9月まで、2022年2月、3月の計6カ月の期間にわたり相談受付を中止しました。また2020年度同様に第2、第4土曜日のみ開設しました。

白血病フリーダイヤル（患者相談受付）（累計 1,251回、8,907件）
開設回数 12回（第2、第4土曜日）
受付相談件数 95件
相談員数 延べ48人（うち医師 延べ12人）

ハンドブック「白血病と言われたら」の頒布活動

「白血病と言われたら」改訂第6版の冊子については、患者・家族、各種学校や医療機関等からの多くの注文がありました。一方、知りたい情報だけを手軽に入手できる無料ダウンロード数も好調で多くの方に活用されました。また、クラウドファンディング「白血病の患者さんに移植費用を届けたい。きち子基金継続にご協力を」において、支援者からのギフトとして9医療機関に同書各10セットを寄贈しました。患者さんのために有効に活用して頂きました。

《出荷状況》

- ・有料頒布数
上巻 295部 下巻 306部
- ・啓発用頒布数
上巻 32部 下巻 32部
- ・ダウンロード数
1,537件（累計3,639件）

①移植患者への経済的支援「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」

基金枯渇により過去に3度の受付休止をしています。今年度は原資が乏しくなり21年11月に白血病支援基金より500万円の繰り入れを行い運営しました。枯渇を避けるべくクラウドファンディングによる資金調達を2月14日から3月31日まで行い10,101,232円を集め、来年度以降の運営を安定的に行う見通しが立ちました。コロナ禍で収入が急減した方からの申請もあり、助成金額は増加しました。

本年度の申請件数は20件（前年度26件）、助成件数は18件（前年度21件）でした。

佐藤さち子記念 造血細胞移植患者支援基金

問い合わせ件数 92 件
申請件数 20 件
助成件数 18 件
助成総額 3,682,397 円
(累計 助成件数 323 件、助成総額 88,926,139 円)

②分子標的薬治療薬と精子保存への経済的支援「志村大輔基金」

2020 年の大口寄付により、今年度は安定した基金運営ができました。分子標的薬の助成件数は、本年度は 84 件（前年度 71 件）、精子保存の助成件数は本年度 10 件（前年度 12 件）でした。

志村大輔基金

問い合わせ件数 53 件
(問い合わせ内訳 分子標的薬 38 件、精子保存 15 件)
申請件数 分子標的薬 76 件、精子保存 11 件
助成件数 分子標的薬 85 件、精子保存 10 件
助成総額 分子標的薬 4,350,000 円、精子保存 257,988 円
(累計 分子標的薬 助成件数 532 件、助成総額 27,580,000 円、
精子保存 助成件数 95 件、助成総額 3,545,068 円)

③未受精卵子保存への経済的支援「こうのとりマリーン基金」

2021 年 4 月から国の研究事業として「小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」が始まり、46 都道府県で助成受付が開始され申請件数は減少しました。当基金で上記事業では賄われなかった費用、また、ほとんどの自治体で対象外となる継続保管料の助成を行っています。

こうのとりマリーン基金

問い合わせ件数 16 件
申請件数 卵子保存 3 件
助成件数 卵子保存 5 件
助成総額 卵子保存 222,010 円
(累計 卵子保存 助成件数 36 件、助成総額 6,278,194 円
体外受精 助成件数 2 件、助成総額 552,680 円)
※体外受精は 2018 年 1 月までの制度

(2) ドナー支援活動

各地方自治体における「ドナー助成制度」の推進については各地の加盟団体のご尽力で、更に多くの市区町村に広がっています。また、併せて企業や団体の「ドナー休暇制度」導入拡大も、ドナーが提供しやすい環境づくりとして重要な制度です。

ドナー助成制度 30 都府県の 841 市区町村
ドナー休暇制度 715 企業・団体 (2022年4月15日現在 日本骨髄バンク調べ)

全国協議会の「ドナーサポートダイヤル」による相談件数は、減少傾向にあります。相談内容としては、ドナー助成金、登録にあたって既往症の問い合わせ、適合通知が届いた家族からの心配事等です。

ドナーサポートダイヤル (ドナー相談受付)
受付相談件数 5 件 (うち電話受付 5 件)
(累計 電話受付 1,261 件、メール受付 242 件 合計 1,503 件)

4. より良い造血幹細胞バンクと医療制度の充実を求める事業

(1) 要望・請願活動

1) ドナー登録手続きのオンライン化

2021 年度はコロナ禍の影響で、活発な活動はできませんでしたが、21 年 7 月 21 日付で以下の 2 点につき、厚生労働省、骨髄・さい帯血バンク議員連盟、公益財団法人日本骨髄バンク、日本赤十字社に対して要望書を提出しました。

① ドナー登録手続きのオンライン化、HLA 型検査にスワブ採取法の早期導入による若年層を中心とした安定的なドナー登録体制の実現

② コーディネートの説明と同意の際における Web 会議方式の採用、確認検査にスワブ採取法の導入、主治医・移植病院、骨髄バンク、コーディネーター、採取病院などの関係者間のオンライン化などによるコーディネート迅速化の実現

議員連盟のご理解により、21 年夏から特別調査研究班が設置されました。この結果「ドナー登録オンライン化」のためのシステム改善、スワブ検査導入の検討が開始され、既に「適合ドナー候補者への最初の電話連絡で、移植日程を知らせる方式に変更」等が実現しました。

また 2021 年度補正予算には、「HLA 検査システム、骨髄適合検索システム」などの更新改修・機能改善 (4 億 6000 万円)、「住所不明ドナー登録者解消対策」(2200 万円) が計上され、補助金が大幅に増加しました。この予算を有効活用し、コーディネート業務のシステム化、オンライン化が進み、若年層を中心とした安定的なドナー登録体制の早期迅速化が期待されます。

2) 小児・AYA 世代のがん患者さん等の妊孕性温存費用の助成

2021年4月1日から国の事業として、がん患者さん等の妊孕性温存費用の助成が始まりました。対象となる患者さんは所得制限や居住地による区別なく、公的助成が受けられます。申請先となる各都道府県では医療機関との連携などの準備が整い次第受付が開始され、2022年3月末では46都道府県で運営されています。全国協議会が要望してきた公的助成が実現しました。

この事業は将来子どもを産み育てることを望む小児・AYA 世代の患者さんが希望をもって治療に臨めるよう妊孕性温存療法に要する費用の一部を助成すると共に、臨床データ等を収集し、妊孕性温存療法の研究を促進するものです。

(2) 調査・研究・セミナー事業、国際交流

① シンポジウムの開催

患者支援活動について理解を促進する事を目的として、2021年5月29日(土)「2021 全国骨髄バンクボランティアの集い」の中でパネルディスカッションを行いました。約160人の参加を得て東京新橋のスタジオからハイブリッド形式で「継承される命・こころ、真の緩和ケアとは～若い親が病気になること」と題し、がんと診断されたときに子どもにどう伝えるか、その子どもたちはどう受け止めているのかを医療現場で支える人、体験者から話を聞きました。ボランティア活動の中で、また、日常で人に寄り添う事を考える良い機会となりました。

② 日本造血・免疫細胞療法学会(旧:日本造血細胞移植学会)総会への参加

2022年5月12日(木)～14日(土)の3日間に開催される学会のポスター発表に応募し「コロナ禍での造血細胞移植患者の経済状況調査の必要性」が採択されました。この発表に向け、全国の移植認定病院の患者支援担当者宛にコロナ禍による移植患者の経済的相談に関するアンケートを行いました。

③ ブロックセミナーの開催

全国各地域での活動を促進するため、2021年度も地元団体(担当理事)が主管団体としてブロックセミナーを開催しました。各地におけるドナー

登録会の様子や課題、日本赤十字社や全国協議会への要望、全国協議会の会費への意見、各団体間の情報交換、などが行われました。コロナ禍のためブロックセミナー開催はオンライン（Zoom）により行われました。

開催期間		シンポジウム・セミナー	主催・協力等団体
2022年	3月6日	中四国ブロックセミナー (Zoom 開催、3 団体 10 人参加)	(中四国地区担当理事)
	3月20日	関東甲信越地区ブロックセミナー (Zoom 開催、5 団体 18 人参加)	(関東甲信越地区担当理事)
	3月26日	東海北陸地区ブロックセミナー (Zoom 開催、4 団体 30 人参加)	(東海北陸地区担当理事)

(5) 日本骨髄バンク、日本赤十字社との連携

日本骨髄バンクおよび日本赤十字社血液事業本部とは、複数回の意見交換を行いました。これらの取り組みにより相互理解が促進され、今後の事業改善に役立てられるものと期待されています。また、関係機関からの要請により、役員・委員等を派遣しています。患者・家族とドナー、ボランティアの視点から意見表明を行いました。ほとんどが Web での会議となっています。

①役員・委員の派遣

日本骨髄バンク評議員（大谷貴子副会長）
 日本骨髄バンクアドバイザーボードメンバー（菅早苗理事）
 日本赤十字社造血幹細胞事業検討委員（田中重勝理事長）

②日本骨髄バンク 理事会・評議員会・業務執行会議等の出席、傍聴 Web 開催となり、傍聴はかなわず資料取り寄せのみとなりました。

③日本骨髄バンク 新任事務局長とのご挨拶（Zoom）

2021 年 10 月 27 日に日本骨髄バンクの小川みどり事務局長新任に伴い、全国協議会理事との面談を Zoom で行いました。参加者は以下の通り。
 日本骨髄バンク：小川みどり事務局長、小島勝広報渉外部長、
 田中正太郎総務部長

全国協議会：田中重勝理事長、村上忠雄副理事長、若木換副理事長、
 梅田正造副理事長、山村詔一郎副理事長、山崎裕一理事

④日本赤十字社 造血幹細胞事業広報作業部会の参加

オブザーバー参加 3 回

一般の方、特に若年層へ造血幹細胞移植の理解を広めるための広報誌「BANK!BANK!」編集作業会議での助言を行い、また、加盟団体を通して配付した広報誌の使用状況や反応、評判について集約し意見を述べました。

- ⑤日本骨髄バンク 全国都道府県担当者会議の傍聴
2021年11月26日（金）

5. 運動体の強化、財政改善の活動

(1) 運動ネットワークの強化

- ・加盟団体、協力団体と連携協力し、2021年11月13日（土）、14日（日）の2日にわたって後援団体として一般社団法人 SNOWBANK 主催、東京雪祭（SNOW BANK PAY IT FORWARD2021）（代々木公園）に参加しました。2日間にわたる活動の成果として、献血402人、ドナー登録121人を獲得しました。
- ・2022年3月13日（日）に新宿中央公園で予定されていた東京新都心ライオンズクラブ主催の献血・ドナー登録会が、コロナ禍の影響により2022年4月10日（日）に延期となりました。東京の会が窓口となり、千葉の会、神奈川の会、全国協議会も参加して、説明員・ボランティアを派遣する予定です。
- ・加盟団体の主催する各種イベントの後援や加盟団体が運営するオンライン交流サイトへの理事の積極的な参加など、全国協議会として積極的に加盟団体と関わって参りました。

(2) 全国協議会の組織強化・財政改善活動

- ・2021年度は第11期役員選任の年度でした。役員選考委員会より、「役員選考は加盟団体の権利であると同時に大きな責務でもある」旨、各団体に伝達し、積極的に役員体制の支援を求めたところ、地区理事、全国区理事、並びに立候補理事とも定員を満たす結果となり、2021年7月1日より新任、再任、重任と多彩な顔ぶれの新役員体制でスタートしました。
- ・理事業務を支援するため、全国協議会の活動内容をまとめ、理事業務のマニュアル化を進めてきましたが「認定特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会の活動紹介と課題」、「東京マラソン運営マニュアル」、「ホームページ運営マニュアル」、「ブロックセミナーマニュアル」の作成、整備を行いました。
- ・ブロックセミナーについては地元団体（担当理事）が主管団体となり、実務的な意見交換・情報交換を実施しました。
- ・ブロックセミナー開催に際し、理事会より①日本赤十字社、全国協議会に対する要望、②会費問題に関する意見・要望、についてテーマとして取り上げてもらうよう要請し、具体的に意見交換を行ってもらいました。コロナ禍の下、ブロックセミナー開催時期が2021年度から2022年度にかけての開催になったため、全てのブロックセミナーが2021年度中に開催されたものではありませんが、中四国（2022年3月6日開催）、関東甲信越（2022年3月20日開催）、東海北陸（2022年3月26日開催）では、闊達な意見交換がなされました。これを踏まえ、理事会、総会での議決へ向けて準備を進めています。
- ・2021年度の新規加盟団体は0、退会団体は3団体でした。退会理由は団体の

解散等によるもの、並びに財政的な問題でした。これにより 2021 年度末における加盟団体数は 34 団体（うち休会中 5 団体）となっています。

- ・新規加盟団体の加入が困難な原因の一つとして年額 120,000 円の会費の問題があるとの認識から、2021 年度より会費が検討されることとなりました。
- ・加盟団体の財政強化の側面的支援を目的として協議会より募金箱の無償提供が理事会により決定しました。
- ・賛助会員制度を財源とした各加盟団体の活動を支援する「加盟団体支援制度」を運用した結果、3 団体から申請を受け、512,500 円の支援を実施しました。また、普及啓発グッズ、ハンドブック購入時の「活動支援制度」を活用し、延べ 6 団体に 163,100 円を助成しました。今後は、加盟団体の要望を基に、加盟団体支援制度の更なる拡充の検討に取り組む予定です。
- ・前年度具体的な事業活動の一つとして、未加盟団体へ働きかけ、加盟団体の増強を図ることを挙げていましたが、実現はできませんでした。2021 年度もコロナ禍の影響により実質的な活動ができなかったことも大きな要因ですが、設立当初と比較して、全国協議会の存在意義が大きく変わってきた現在、加盟団体と全国協議会の関係のあり方が大きく問われています。全国協議会は加盟団体に対してどのような情報やサービスを提供すべきなのか、加盟団体は正会員としての意思決定を納得して行えているか、等、会費の問題も含め、ブロックセミナーで集約された意見を参考にして、今後も継続してこの課題に取り組んでまいります。
- ・財政改善活動については以下の通りです。

《収入の増加対策》

2021 年度は 2020 年度に引き続きコロナ禍の影響を受けましたが、寄付金（一般寄付、賛助会費、募金箱収入の合計）による収入は対前年度比 137%（前年度・今年度限定の大口寄付を除く）と回復傾向にあります。そのような状況の中、次の各施策に取り組みました。

- ・外部助成金の活用
公益財団法人正力厚生会「がん患者団体助成事業」から 40 万円の助成金受給が決定しました。
- ・クラウドファンディングの活用
佐藤きち子基金の患者助成資金・運営資金確保のためクラウドファンディング「白血病の患者さんに移植費用を届けたい。きち子基金継続にご協力を」を実施。当初目標 300 万円（ネクストゴール 1,000 万円）のところ、延べ 561 人の支援者より 10,101,232 円の寄付が集まりました。
- ・募金箱の活用
2021 年度 1 年間に新規設置台数（個別店）30 件の目標に対し、19 件の増加となりました。
- ・寄付をいただいた会社・団体等を訪問しお礼を伝えました。
株式会社三井化学、プルデンシャル生命保険株式会社港南支社（浜松町）、株式会社マルト、「ドージョーチャクリキ主催・日本骨髄バンクチャリティ格闘技試合（新宿区）」

- ・認定特定非営利活動法人の認定要件である7割要件問題については実績判定期間の最終年度2023年度に必要な特定資産を積み立てることが理事会により決定されました。

(3) その他

- ・2021年8月25日、日本青年会議所(JC)中島土(なかしまつち)次期会頭(22年1月1日就任)、外1名、日本赤十字社古館賢一(ふるだてけんいち)造血細胞管理課長、鹿野千治献血推進課長、JC元会頭新田八朗(にったはちろう)富山県知事、東ちづる氏、全国協議会大谷貴子副会長、田中重勝理事長、外3名がZoomにて面談を行い、若年層への献血の習慣づけを行ないドナー登録に結び付くように、JCに協力をお願いしました。
- ・上記を受け、2021年10月5日にJCの柴崎政俊社会グループ担当常任理事他2名、日本赤十字社の高梨美乃子血液事業本部技術部次長他3名と全国協議会の大谷副会長、田中理事長がZoomで献血、ドナー登録促進活動における協力等の問題について面談、意見交換を行いました。